

二条大麦に不稔粒が発生しています！ 赤かび病の追加防除を行いましょ！

現在、県内の二条大麦ほ場で「ちょうちん穂」が見られます(図1)。これは4月29日に、25以上の高温により不稔粒が発生したためです。

今年の麦類の出穂は平年より7日程度遅く、生育が遅れています。不稔粒の発生は赤かび病(図2)の発生を助長することから、今後赤かび病の増加が懸念されます。追加防除で赤かび病の発生を抑えましょ。



図1 ちょうちん穂
(矢印：不稔粒)



図2 赤かび病(二条大麦)

防除のポイント

- ・一回目の防除で使用した薬剤と同系統の薬剤は避け、収穫前日数に留意して薬剤を選定する。
生育の遅れが小さい地域(県南部)では、収穫時期を十分考慮して防除を行う。
- ・収穫作業時に赤かび病被害粒が確認されたほ場は、健全粒に混入しないよう刈り分けを行う。

表1 麦類赤かび病に登録のある主な薬剤(平成24年5月14日現在)

系統名	薬剤名	作物名	希釈倍数 使用方法(散布液量)	使用時期 収穫前日数/使用回数
DMI剤 (EBI剤)	シルバキュアフロアブル	大麦	2000倍 散布(60~150L/10a)	14日/2回以内
	ワークアップフロアブル	大麦	2000倍 散布(60~150L/10a)	14日/2回以内
ベンゾイミダ ゾール系	トップジンMゾル	麦類(小麦 を除く)	1500倍 散布	14日/3回以内 出穂期以降は1回以内
QoI剤 (ストロビー剤)	ストロビーフロアブル	麦類(小麦 を除く)	2000~3000倍 散布(60~150L/10a)	14日/3回以内

詳しくは農業環境指導センター(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>)までお問い合わせ下さい。

TEL: 028-626-3086